

事故防止対策委員会 中間報告書が作成できました



会議風景

各事業の現場代表者が毎回活発に意見を飛び交わせております

中間報告 内容

日中活動支援課	<ul style="list-style-type: none"> 特徴と傾向、その要因 現場からみた課題 改善に向けた取り組み 安全な支援実現のための提案
生活支援課	<ul style="list-style-type: none"> 事故後、浮き彫りとなった課題とその原因 実施した改善策 安全な支援実現のための提案
グループホーム支援課	<ul style="list-style-type: none"> 日頃抱える課題とその原因 実施した改善策 安全な支援実現のための提案

※当法人ホームページにて中間報告書（一部抜粋版）を掲載しております。

このたび「事故防止対策委員会中間報告書」がまとまりました。すでに全職員へ周知はしておりますが、皆さん確認してもらえませんでしたでしょうか？
 2019年3月27日の生活支援事業における重大事故から1年が経ちました。安全なサービス提供の実現のためには、現場として、法人として、それぞれの課題があります。
 当報告書では、様々な現場の声が書かれています。重大事故は起きてからでは遅いのです。今日からできることがきつとあるはず。まずは一人でも多くの職員が、より一層の事故防止対策意識の向上、安全な現場支援の実現ができるよう、委員一同が入念な委員会活動を通じて作成しました。
 中間的な報告として、そよかぜの家日中活動支援課、同生活支援課、グループホーム支援課の3事業についての検証結果を示しています。

落合委員より

チームの一員として働いていますか???

チームとはなんでしょう？
 烏合の衆であれば単なるグループでしかありません。

チームとは成員がそれぞれ力を出し合いミッションをクリアしていく集団だと私は考えています。

利用者支援では職員の利用者への思いが強くなってしまう場面もあります。私達は考え方も価値観も違います。意見の食い違いもあるでしょう。

そのような際は一旦距離をおいて全体を見てみましょう。

ミッションが何であるか立ち戻る必要があります。

チームの一員として今やるべき事が何であるか、求められている優先順位が何であるか、確認していきましょう。

チームの中で共有されたミッションをクリアしていきましょう。



ミス・事故・ヒヤリハット一覧の検証結果について

<そよかぜの家日中活動支援課・生活支援課・グループホーム支援課編>

—事故防止対策委員会中間報告—

2020年5月
事故防止対策委員会

1. はじめに

事故防止対策委員会は、活動方針を業務環境に潜むリスク要因を洗い出し、その改善を提案することを当面の目的として行っています。議論するにあたって、各事業の「ミス・事故・ヒヤリハット一覧」を材料とすることにしました。

これまでに、そよかぜの家日中活動支援課、同生活支援課、グループホーム支援課の3事業についての検証をしました。この中間報告書が法人各職員の議論の呼び水となり、幅広い意見を求めると共に、各種委員会で参考とされることを期待し作成しました。

2. 各事業における課題・改善策・提案

《そよかぜの家生活支援課》

生活支援課では2019年3月27日の重大事故の発生から、さまざまな課題が浮き彫りとなり、改めて安全な福祉サービス提供のための「支援の統一化」が重要と考えた。

よって以下、課題・原因として挙げ、またその改善策としての取組みを実践している。

課題と原因

現場職員が共通して認識するべき、日々生じたヒヤリハット・ミスの傾向や対策の共有が不十分である(特に日中活動との兼任職員) / 担当業務・実務・雑務量が多いため、本来第一に実践するべき「利用者支援」が手薄になりがちであること

実施した改善策

チーム内で兼任職員も交えた内部研修会を開催 / 各種マニュアルの整備・再作成 / 現場職員へのアンケートの実施 / 異動者へのOJT実践 / ショートステイ連絡票導入

提案

ヒヤリハット報告の基準とルールを統一を図る。当日の利用状況により体制が厳しく、利用者対応で目一杯であることも少なくない。そのような場合は、家事等の雑務・一時的な利用者見守りなど、更に他事業や事務職員等が応援に入るような環境・職場づくりを図る。また、新規利用者が多い中(昨年度56名)、既存の利用者支援に追われ、登録手続き(面談・プロフィール作成・体験日調整)にとられる専任者確保に限界があるため、基幹相談支援センターを中心とした相談員との協働を検討する。

《そよかぜの家日中活動支援課》

日中活動支援課は、1日に40名以上の利用者が通所しており、職員人数も多い事業である。「職員や利用者の人数の多さ」という特徴から出てくる課題を中心に、改善案を以下にまとめた。

特徴と傾向、課題、要因

地域活動ホームの日中活動という特性上、利用者人数も多く、様々な障害特性のある利用者が混在しており、施設の構造上の問題から起こる利用者把握のしにくさ、限られた活動スペースの中で個々の利用者に合わせて環境設定をする難しさがある。また、日々の職員体制が変則的(生活支援との兼務職員など)であること、各グループに分かれて活動することで、時間帯により職員が互いのグループを行き来するような入り組んだ動きをとっていることから、情報の正確な伝達を難しくしていることがある。引継ぎ不足によるミス(荷物や投棄等)が多くあげられる。

実施した改善策

グループ間での共有ができるように、グループごとのレターケースを設けた。またサイボウズを有効活用できるようグループや担当ごとに掲示板を作り、情報共有を心がけた。重要なものは、全体の掲示板で再周知。

提案

ミス・ヒヤリハットとは何かを明確化する。階層に応じた研修の実施と、業務分掌の明確化。(サービス管理責任者が、本来業務の枠を超える仕事量を抱えている)、施設の機能やそれぞれの事業の在り方からみた、活動の組み立てについての議論。

《グループホーム支援課》

グループホーム支援課では、改めて安全な福祉サービス提供のために必要なことは、抜本的な体制および職場風土の改善が重要と考えた。よって以下、課題・原因として挙げ、またその改善策を検討している。

課題と原因

グループホームは、入居者支援以外に雑務やタイムリーな人員の調整など、扱う分野が多岐に渡るが、現状は、担当職員で解決する為の想像力や解決力（考え、実行する力）が育っていない。また、発信力も乏しい。管理者（サービス管理責任者含む）と現場職員の線引きができておらず業務が煩雑になっている。日々、対症療法を繰り返しているに過ぎない。

改善案

各ホーム担当職員の人材教育を実施して、ある程度各担当職員でホームが運営できる体制作りと業務の効率化を図る。入居者の高齢化に伴うハード面（バリアフリーなど）の整備と、職員の勤務形態の変更。

提案

人材の確保：現状は女性職員。勤務形態の変更案として、常勤は基本日勤帯の勤務に出来ると望ましい。（理由としては次の3点があげられる。①入居者が日中の通所を欠席することになった場合、泊まり明けの職員がそのまま対応する必要があり、少なくない超過勤務が発生することを解消するため。②夜勤に入っているパート職員と常勤職員が顔を合わせて引継ぎをする時間が少なく、結果、常勤職員が休みの日や明け（勤務時間外）に電話で引継ぎ対応することが多い。③グループホーム常勤職員のミーティングの必要性。現在は明けでミーティングに参加する職員もいる。）

3. さいごに

この中間報告は今年5月に法人内全事業所の職員に周知しました。現在、生活支援課では手書きのヒヤリハット表を現場に張り出し、タイムリーに気付いたことを書き込めるようにし、以前よりも数多くの報告が挙がってくるようになりました。日中活動支援課では、今必要なミニ内部研修やミーティングがタイムリーに行われ、情報の共有化を進めています。グループホーム支援課では、マニュアルの整備を行いました。また、毎月のミーティングで、事業の仕組みやヒヤリハットなどのミニ研修を実施しています。

事故防止対策委員会は、今年度に入り異動のため1名職員が入れ替わり、また、新型コロナウイルス感染症の状況により社内メールなどを活用しながら、引き続き活動を行っています。

職員一人一人が『事故再発防止』の意識を強く持ち、法人が一体となり支援向上していけるよう、今後も委員会から様々な発信をしていきます。

以上